

検査項目	健康障害の種類	
眼底検査	目の奥の血管を観察する検査で、高血圧症、動脈硬化、腎硬化症、糖尿病の合併の有無、目の病気を調べます。	
肺機能検査	気管支ぜんそく、肺気腫などの有無をみます。	
胸部X線検査	肺結核、肺がん、肺炎などの病気の他、大動脈の石灰化や心臓の肥大などを観察します。	
胃部X線検査	食道、胃、十二指腸の異常をみます。	
乳がん検診	乳がん、繊維線種、乳腺症などの有無をみます。	
腹部超音波検査	超音波を使って内臓の形をチェックします。脂肪肝や肝硬変、胆石やのう胞、腫瘍や奇形などを診断します。	
便潜血検査	大腸がん、大腸ポリープ等の消化管の出血性病変の存在がわかります。	
血液脂質検査	中性脂肪	肥満や食べ過ぎ飲み過ぎ、運動不足などで値が高くなります。生活習慣病の判断に大変重要な項目です。
	HDLコレステロール	善玉コレステロール(HDL)、悪玉コレステロール(LDL)と言われています。この項目により動脈硬化の推測、高血圧、糖尿病、高脂血症をみます。
	LDLコレステロール	
糖尿病検査	尿糖	糖尿病、腎性糖尿病など。
	血糖	糖尿病、腎性糖尿、低血糖症など。
	HbA1c	過去3ヶ月程度からの血糖値を反映する検査のため、長期的に糖代謝をみることができます。
腎臓機能検査	尿蛋白	腎炎、ネフローゼ症候群等の腎疾患、尿路系の異常、糖尿病性腎症など。
	尿潜血	尿路の炎症、結石、腫瘍など。
	クレアチニン	腎機能障害、腎不全、心不全、腎盂腎炎など。
肝臓機能検査	AST	肝臓内に存在する酵素で、肝臓障害があると血液中に漏れて高値となります。
	ALT	
	γ-GTP	アルコール性肝障害で高くなります。
	ALP	肝臓や胆嚢・胆道系の異常を見つける検査です。黄疸の指標としても利用する項目です。
	T-BiL	
	LDH	肝障害、心筋梗塞、筋肉疾患など。
	血清アミラーゼ	膵臓が産生する消化酵素です。膵臓の炎症や腫瘍などにより高値になります。
血液一般検査	白血球・色素・ヘマトクリット	貧血の程度がわかります。色素・赤血球・ヘマトクリット値の3種類である程度の貧血の分類が可能です。
	MCV/MCH/MCHC	MVCは赤血球の容積、MCHIは赤血球中のヘモグロビン含量MCHCは赤血球中のヘモグロビン濃度がわかり、貧血の詳細がわかります。
	白血球数	白血球は感染症や炎症を知るための重要な検査です。急性の炎症・感染症・慢性骨髄性白血病などで増加します。また、喫煙でも多くなります。
尿酸	痛風を発見する手がかりとなる検査です。高い値が続くと腎臓病や動脈硬化など起こりやすくなります。	